

「ある日 犬の国から 手紙が来て」



著者/田中 マルコ
イラスト/松井 雄功
小学館 ¥1,260
発行/2009年03月
ISBN/ 9784093878371



昨年末に愛犬のラブを亡くした際には、皆様方に慰めのお言葉をかけていただいたり、お花をいただいたりして本当にありがとうございました。

その中には、私たち夫婦のペットロス症候群をお気遣いいただいたのか「ある日 犬の国から 手紙が来て」と云う本もありました。松井雄功氏のほのぼのとしたカラー刷りの挿絵が16ページ掲載され、犬と飼い主との体験と思いが詰まった6編の実話が綴られています。6頭の犬と飼い主との交流を淡々とした語り口で紹介した後、天国に旅立った愛犬から其々の飼い主に手紙が届くという趣向になっています。その中からモクという名前のミックス犬と田中さんというおじいちゃんとの交流を書いた1篇だけ簡単に紹介します。

田中さんの一人娘が嫁に行くことになり、年寄りの一人暮らしを案じた娘が、子犬のモクをもらって来たことから子犬と田中さんとの交流が始まることになりました。モクは虐待からレスキューされた子犬だったため、最初は人間不信から

田中さんに心を開こうとしませんが、田中さんの優しさに触れて、やがて二人の関係は本当のおじいちゃんとなつていきました。しかしそんな二人の関係も長くは続かず、7年目の夏に突然の心臓発作でモクは帰らぬ犬となつてしまいました。

モクの死後、田中さんはモクの体調の変化に気づかず死なせてしまったことを悔いる日々を送っていたのですが、そんな時に「犬の国」に居るモクからの手紙がとどくのです。「ぼくはおじいちゃんが大好きです。犬の国にきて、ともだちもできました。だけど、やっぱりおじいちゃんのとこに帰りたい。おじいちゃん、今もボクを大好きでいてくれますか?・中略・おじいちゃんにおねがいがあります。どうか、ボクのような、ひどいめにあっている犬をもうひとりたすけてあげてください。ボクの弟か妹を飼うことをゆるします。・中略・」

この本をいただいたことをきっかけに、「ラブちゃん日記」の後は「ワンダラーの読書日記」が引き継ぐことになりました。動物と人間との交流を描いた小説や随筆を中心に皆様にご紹介していきたいと思っております。拙文ではございますがお付き合いくださいます、よろしくお願ひ申し上げます。